

表 12 検査機関別 HIV 抗体検査受検者の性行動について (2015 年 7 月～9 月まで)

	岡山県		岡山市		倉敷市		拠点病院		クリニック		合計	Pearson χ^2	
あなたはこれまでにセックスをしたことがありますか?													
ある	53	100.0%	106	98.1%	42	100.0%	15	100.0%	13	100.0%	229	99.1%	0.97
ない	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	
無回答	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	
合計	53	100.0%	108	100.0%	42	100.0%	15	100.0%	13	100.0%	231	100.0%	
あなたがこれまでにセックスをした相手の性別は以下のどれにあてはまりますか?													
男性のみ	14	26.4%	32	29.6%	15	35.7%	2	13.3%	4	30.8%	67	29.0%	<0.01
女性のみ	35	66.0%	70	64.8%	25	59.5%	11	73.3%	1	7.7%	142	61.5%	
男性と女性両方	3	5.7%	3	2.8%	2	4.8%	2	13.3%	8	61.5%	18	7.8%	
性交経験なし	0	0.0%	2	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	
無回答	1	1.9%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	
合計	53	100.0%	108	100.0%	42	100.0%	15	100.0%	13	100.0%	231	100.0%	
あなたはこれまでにクラミジアや淋病、梅毒などの性感染症にかかったことはありますか?													
ある	9	17.0%	28	25.9%	7	16.7%	2	13.3%	6	46.2%	52	22.5%	0.52
ない	43	81.1%	77	71.3%	35	83.3%	13	86.7%	7	53.8%	175	75.8%	
性交経験なし	0	0.0%	2	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	
無回答	1	1.9%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	
合計	53	100.0%	108	100.0%	42	100.0%	15	100.0%	13	100.0%	231	100.0%	
過去6ヶ月間に相手にお金を払ってセックスをしたことがありますか?													
ある	19	35.8%	41	38.0%	10	23.8%	項目なし	1	7.7%	71	30.7%	<0.01	
ない	33	62.3%	64	59.3%	32	76.2%		12	92.3%	141	61.0%		
性交経験なし	0	0.0%	2	1.9%	0	0.0%		0	0.0%	2	0.9%		
無回答	1	1.9%	1	0.9%	0	0.0%		0	0.0%	17	7.4%		
合計	53	100.0%	108	100.0%	42	100.0%		13	100.0%	231	100.0%		
過去6ヶ月間に相手からお金をもらってセックスをしたことがありますか?													
ある	1	1.9%	4	3.7%	1	2.4%	項目なし	1	7.7%	7	3.0%	<0.01	
ない	51	96.2%	100	92.6%	40	95.2%		12	92.3%	203	87.9%		
性交経験なし	0	0.0%	2	1.9%	0	0.0%		0	0.0%	2	0.9%		
無回答	1	1.9%	2	1.9%	1	2.4%		0	0.0%	19	8.2%		
合計	53	100.0%	108	100.0%	42	100.0%		13	100.0%	231	100.0%		

*参加施設：岡山県 9 保健所、岡山市保健所、倉敷市保健所、拠点病院 10 ヶ所、クリニック（クリニック検査キャンペーン）3 ヶ所

表 13 検査機関別 HIV 抗体検査受検者の検査広報の認知について(2015年7月～9月まで)

	岡山県		岡山市		倉敷市		拠点病院		クリニック		合計	Pearson χ^2	
あなたは検査広報カードをみたことがありますか?													
ある	3	5.7%	6	5.6%	3	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	12	5.2%	0.88
ない	50	94.3%	101	93.5%	38	90.5%	15	100.0%	13	100.0%	217	93.9%	
無回答	0	0.0%	1	0.9%	1	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	
合計	53	100.0%	108	100.0%	42	100.0%	15	100.0%	13	100.0%	231	100.0%	
どこでみましたか?(複数回答)													
トイレ	1	33.3%	2	33.3%	1	50.0%	-	-	-	-	4	36.4%	0.91
会社	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	-	-	-	-	1	9.1%	0.63
学校・大学	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-	-	-	-	0	0.0%	-
病院	1	33.3%	3	50.0%	0	0.0%	-	-	-	-	4	36.4%	0.44
クラブイベント	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-	-	-	-	0	0.0%	-
ゲイバー	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	-	-	-	-	1	9.1%	0.63
その他	1	33.3%	2	33.3%	2	66.7%	-	-	-	-	5	45.5%	0.23
合計	3	100.0%	6	100.0%	3	100.0%					11	100.0%	
あなたは検査に来る前に、以下の印刷物やロゴ、ホームページなどを見たことがありますか?(複数回答)													
岡山県のホームページ	14	26.4%	19	17.6%	4	9.5%	3	20.0%	0	0.0%	40	17.3%	0.11
岡山市のホームページ	9	17.0%	28	25.9%	1	2.4%	2	13.3%	2	15.4%	42	18.2%	0.02
倉敷市のホームページ	3	5.7%	1	0.9%	12	28.6%	1	6.7%	0	0.0%	17	7.4%	<0.01
あうとぴーち	0	0.0%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%	4	30.8%	5	2.2%	<0.01
HaaTえひめ	0	0.0%	2	1.9%	1	2.4%	0	0.0%	4	30.8%	7	3.0%	<0.01
fight!!	1	1.9%	1	0.9%	1	2.4%	0	0.0%	4	30.8%	7	3.0%	<0.01
やる!プロジェクト	1	1.9%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.7%	3	1.3%	0.27
もんげー性病検査	0	0.0%	2	1.9%	1	2.4%	0	0.0%	11	84.6%	14	6.1%	<0.01
合計	53	100.0%	108	100.0%	42	100.0%	15	100.0%	13	100.0%	231	100.0%	

*参加施設：岡山県 9 保健所、岡山市保健所、倉敷市保健所、拠点病院 10 ヶ所、クリニック(クリニック検査キャンペーン)3 ヶ所

表 14 検査機関別 HIV 抗体検査受検者の検査に対する評価について(2015 年 7 月～9 月まで)

	岡山県	岡山市	倉敷市	拠点病院	クリニック	合計	Pearson χ^2						
検査満足度 1) 話し方・言葉づかいはどうでしたか?													
とても満足	47	88.7%	100	92.6%	38	90.5%	11	73.3%	11	84.6%	207	89.6%	0.43
やや満足	5	9.4%	7	6.5%	4	9.5%	4	26.7%	2	15.4%	22	9.5%	
やや不満	1	1.9%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
合計	53	100.0%	108	100.0%	42	100.0%	15	100.0%	13	100.0%	231	100.0%	
検査満足度 2) 質問しやすい雰囲気についてはどうでしたか?													
とても満足	46	86.8%	99	91.7%	38	90.5%	11	73.3%	10	76.9%	204	88.3%	0.31
やや満足	6	11.3%	8	7.4%	4	9.5%	3	20.0%	3	23.1%	24	10.4%	
やや不満	1	1.9%	1	0.9%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	3	1.3%	
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
合計	53	100.0%	108	100.0%	42	100.0%	15	100.0%	13	100.0%	231	100.0%	
検査満足度 3) 安心できる雰囲気についてはどうでしたか?													
とても満足	46	86.8%	97	89.8%	38	90.5%	9	60.0%	11	84.6%	201	87.0%	<0.01
やや満足	6	11.3%	11	10.2%	4	9.5%	4	26.7%	2	15.4%	27	11.7%	
やや不満	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	13.3%	0	0.0%	3	1.3%	
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
合計	53	100.0%	108	100.0%	42	100.0%	15	100.0%	13	100.0%	231	100.0%	
検査満足度 4) プライバシー保護についてはどうでしたか?													
とても満足	41	77.4%	92	85.2%	32	76.2%	9	60.0%	7	53.8%	181	78.4%	0.05
やや満足	9	17.0%	14	13.0%	5	11.9%	6	40.0%	5	38.5%	39	16.9%	
やや不満	2	3.8%	2	1.9%	4	9.5%	0	0.0%	1	7.7%	9	3.9%	
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
無回答	1	1.9%	0	0.0%	1	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.9%	
合計	53	100.0%	108	100.0%	42	100.0%	15	100.0%	13	100.0%	231	100.0%	

*参加施設：岡山県 9 保健所、岡山市保健所、倉敷市保健所、拠点病院 10 ヶ所、クリニック(クリニック検査キャンペーン)3 ヶ所

HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供と利用状況の解析

研究分担者：佐野貴子（神奈川県衛生研究所 主任研究員）

研究協力者：今井光信（田園調布学園大学）、岡部英男（神奈川県衛生研究所）、
近藤真規子（神奈川県衛生研究所）、加藤真吾（慶應義塾大学医学部）
須藤弘二（慶應義塾大学医学部）、井戸田一朗（しらかば診療所）
星野慎二（特定非営利活動団体 SHIP）、清水茂徳（東日本国際大学）
杉浦太一（株式会社 CINRA）、市川誠一（人間環境大学）

研究要旨

保健所等の HIV 検査相談施設や HIV 検査に関する最新情報、HIV/エイズの基礎知識などを継続的に提供し、国民の HIV/エイズへの理解促進や検査希望者の受検サポートを目的としたホームページ「HIV 検査・相談マップ」（<http://www.hivkensa.com>）の管理・運営を行った。また、本サイトによる情報提供の効果を調査するため、アクセスアナライザーによる利用状況の解析を行った。

年間サイトアクセス数は、2015 年は 186 万件であり、2014 年の 194 万件と比較して 4% 減となった。情報端末別の訪問数では、スマートフォンからは、2014 年は 131 万件（74%）であったのに対し、2015 年は 144 万件（78%）と増加していた。スマートフォン利用者の増加により、当サイト閲覧も年々スマートフォン経由が多くなっており、手軽にアクセスできるようになっていることが示唆された。訪問者別割合は、新規訪問者が 59%、リピーターが 41% で、4 割は複数回利用していることが分かった。月別アクセス数は、2015 年 5 月から 10 月までは前年度を下回っていたが、11 月は米国俳優の HIV 感染公表のニュースにより前年比 40% 増となった。日別訪問数で見ると、一番アクセス数が多かった日は、11 月 18 日の米国俳優感染公表のニュースで 36,946 件、次いで、5 月 28 日のエイズ動向委員会報告で 28,144 件であった。

受検者の HIV 検査情報の入手方法を調査するために、MSM 対象の特設検査会で実施されたアンケート調査結果を解析したところ、約 3 割は当サイトから情報を入手していたことが分かった。また、HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート調査において、本サイトの利用状況等を保健所 HIV/エイズ対策担当者に聞いたところ、担当者の約 9 割は当サイトを閲覧したことがあり、約 8 割は HIV 検査相談事業に役立っているとの回答であった。このことから、当サイトは保健所 HIV 検査相談事業に寄与していることが示唆された。

2001 年の開設から 2015 年末で 1,551 万アクセスを超えた。現在も多くの方に当サイトを利用していただいていることから、今後も正確で最新の HIV 検査情報を提供していくとともに、MSM 向けサイトとの連携や外国籍をターゲットとしたサイトコンテンツを新規作成することで、更なる HIV/エイズの理解促進と、HIV 検査数の増加に貢献していきたいと考えている。

A. 研究目的

ホームページ「HIV 検査・相談マップ」

（<http://www.hivkensa.com>）を運営し、保健所等の HIV 検査相談施設や HIV 検査に関する

最新情報、HIV/エイズの基礎知識などの情報を継続的に提供することで、国民の HIV/エイズへの理解を促すとともに、HIV 検査希望者の受検サポートを行う。また、アクセス解析から、利用状況や閲覧ページの動向等を調査し、より効果的な HIV 検査相談体制を考案する。

B. 研究方法

保健所等HIV検査相談施設および即日検査研究協力クリニック等の最新HIV検査情報やHIV検査に関する基礎知識等について、ホームページ「HIV検査・相談マップ」(PCサイト、スマートフォンサイト、携帯電話サイト)に掲載を行った。PCサイトは2001年9月に開設し、携帯電話サイトは2003年4月にi-mode版を開設、2004年3月からはすべての携帯電話からのアクセスを可能にした。2009年10月にはPCサイトおよび携帯電話サイトともにリニューアルを行った。2013年にはスマートフォンサイトを開設した。ページ更新作業としては、新年度前に自治体等詳細情報掲載施設に情報確認依頼文書を送付し、3月下旬から4月下旬にかけて定期修正を行った。また随時、新規掲載作業、掲載情報修正作業、検査イベント情報の掲載作業等を行った。

本サイトによる HIV 検査情報提供の効果調査には、Google Analytics を用いサイトアクセス数(年別、月別、日別)、キャリア別、検索都道府県別のアクセス数、参照元からのアクセス数等を調査した。また、検索エンジンにおける検索用語別の表示順位、問い合わせ内容の調査、特設検査施設受検者へのアンケート調査、保健所 HIV/エイズ担当者へのアンケート調査を行った。

C. 研究結果

1. 新規情報掲載、情報修正等の状況

2015年のHIV検査相談施設の新規掲載は1箇所について行い、他に1箇所の削除施設があったため、本サイトの施設情報合計は2014年と同

じ666箇所となった(図1)。検査イベント情報の掲載依頼は157件、情報修正依頼は345件であった。

2. Google Analyticsによるアクセス解析

PCサイト、スマートフォンサイト、携帯電話サイトでの 2001 年からの合計アクセス数は約 1,551 万件となった(図2)。2015年の年間サイトアクセス数は186万件となり、2014年の194万件と比較して4%減となった。情報端末別の訪問数では、スマートフォンからのアクセスは、2014年は131万件、総アクセス数に占める割合は74%であったのに対し、2015年は144万件、総アクセス数に占める割合は78%となり、2015年のアクセス数は10%の増加となっていた(図3)。一方で、PC経由は18%減、携帯電話経由は24%減となった。スマートフォン利用者数の増加により、当サイト閲覧も年々スマートフォン経由が多くなっており、手軽にアクセスできるようになっていることが示唆された。訪問者別割合は、新規訪問者が59%、リピーターが41%で、4割は複数回利用であることが分かった(図4)。月別アクセス数は2015年5月から10月までは前年度を下回っていたが、11月は米国俳優の HIV 感染公表のニュースにより前年度比40%増となった(図5)。日別訪問数で見ると、一番アクセス数が多かった日は、11月18日の米国俳優感染公表のニュース関連で36,946件、次いで、5月28日のエイズ動向委員会報告関連で28,144件、11月24日のエイズ動向委員会報告関連で17,918件であった(図6)。米国俳優の HIV 感染公表のニュースでは、前日のアクセス数は5,123件であったが、ニュース当日の11月17日の日別アクセス数は24,702件と前日比約5倍増、翌日の11月18日は36,946件と約7倍増、11月19日は15,059件、11月20日は10,314件であり、本ニュース関連で約9万件のアクセスの増加が見られた。

都道府県別のアクセス数では、東京都が最

も多く、次いで大阪府、神奈川県、愛知県、埼玉県、兵庫県と続き、ほぼ人口順であった(図7)。

チャネル別のアクセスは、検索エンジンからのアクセスが75%、直接アクセスが14%、他サイトからのアクセスが10%、SNSからのアクセスが1%であった(図8)。参照元サイトを詳しくみると、Googleが一番多く約77万件、Yahoo!JAPANからが約55万件であった(図9)。ゲイ向けサイトでは、2012年度に作成したMSM向けバナーを設置してもらっているサイト「ko-mens.tv」からのアクセス数が一番多く、他のサイトからのアクセスも見られた(図10)。

サイト内の「お問い合わせ」フォームからの問い合わせ内容としては、HIV検査を受けるにあたっての質問(住居地以外での検査希望、検査費用、子供の検査、薬の影響)、受検した検査施設の不安や苦情(職員の対応、注射針、手袋、結果の信頼性、検査返却)、掲載情報等の内容について、性的接触による感染リスクについて、当サイトの紹介・掲載希望、感染リスクから検査までの期間による結果解釈について、HIV陽性判明後の通院・服薬等について等があった(図11)。

検索エンジン(Google、Yahoo!JAPAN、bing)での検索用語別表示順位を調べたところ、「HIV」では1位、「エイズ」では3位であったが、「AIDS」では14位であった(図12)。「AIDS」と「検査」を組み合わせると1位となった。

受検者、特にMSMの方のHIV検査情報の入手方法を調査するために、2015年9月から2016年2月に特定非営利活動法人SHIPで行われたゲイのためのエイズ・性感染症検査において、SHIP検査の情報をどこで得たかを聞いたところ、SHIPのホームページが53%、HIV検査・相談マップは26%、クチコミが14%であった(図13)。

全国保健所および特設検査施設に対して実施したHIV検査相談に関するアンケート調査において、本サイトの利用状況等に関する質

問をHIV/エイズ対策担当者に質問したところ、「当サイトを閲覧したことがあるか」の設問に対しては、「ある」との回答は保健所92%、特設検査施設100%であり(図14、15)、「当サイトが事業に役立っていると思うか」の設問では、「思う」が保健所77%、特設検査施設95%であった(図16、17)。「当サイトを見て受検した方はいるか」については、「いる」が保健所22%、特設検査施設75%であった(図18、19)。「いる」と回答した保健所、特設検査施設の123箇所中、受検者の50%以上が当サイトをみて受検したと回答した施設が16箇所あった。

D. 考察

年間サイトアクセス数は、2015年は186万件であり、2014年の194万件と比較して4%減と若干減少した。月別アクセス数を見たところ、2015年5月から10月まではHIV/エイズ関連のニュース等が少なかったためか前年を下回っていたが、11月に米国俳優のHIV感染公表のニュースにより前年度比40%増となり、ほぼ前年のアクセス数にまで回復した。米国俳優のHIV感染公表のニュースの前日のアクセス数は5,123件であったが、ニュース当日である11月17日の日別アクセス数は24,702件と前日比約5倍増、翌日の11月18日は36,946件と約7倍増となり、本ニュース関連で約9万件的アクセスの増加が見られた。我が国でもかなりの反響が見られたが、米国では非常に大きな反響となり、米グーグルでのHIVに関する検索結果によると、告白当日は通常の4倍以上の検索があり、告白直後から約20日間で平均より約275万回多い検索が行われたと、Ayersらの論文で発表された¹⁾。HIV/エイズに関して興味を持つニュースが報道されるとインターネット上での検索が増え、アクセス数が増大することが判明し、我が国においては当サイトがその情報検索の受け皿として役割の一端を担っていると言える。

情報端末別の訪問数では、スマートフォン

からは、2014年は131万件（74%）であったのに対し、2015年は144万件（78%）と増加していた。スマートフォン利用者の増加により、当サイト閲覧も年々スマートフォン経由が多くなっており、手軽にアクセスできるようになっていることが示唆された。訪問者別割合は、新規訪問者が59%、リピーターが41%で、4割は複数回利用していることが分かった。常に新しい情報を更新し、リピーターも含めた訪問者数の増加を計っていくことが、閲覧者のHIV受検行動に繋がるのではないかと考える。

参照元からのアクセス数をみると、検索エンジンからのアクセス数が全体の75%を占めており、「HIV」や「エイズ」といった検索キーワードで高順位に表示されることが本サイトへのアクセス誘導に結びついていると思われた。また、2012年度に作成したMSM向けバナーを設置していただいているサイトからのアクセスもあることから、MSMの利用率が高いサイトにバナーを設置してもらうことで、感染リスクの高い層へのアプローチが可能になると考えた。

サイト内の「お問い合わせ」フォームへの問い合わせ内容では、HIV検査を受けるにあたっての質問、受検した検査施設の不安や苦情、掲載情報の内容に関する質問が多かった。問い合わせに関しては、可能な限り研究班から発信者に返信を行い、正確な情報の提供と過剰な不安の軽減に努めた。

受検者、特にMSMの方のHIV検査情報の入手方法を調査するために、特定非営利活動法人SHIPで行われたゲイのためのエイズ・性感染症検査において、SHIP検査の情報をどこで得たかを調査したところ、SHIPのホームページを直接見て情報を入手した方が約5割であったが、当サイトから情報を入手した方も約3割いた。このことから、MSMの方も当サイトを利用してHIV検査を受検していることが分かった。また、全国保健所および特設検査施設に対して実施したHIV検査相談に関するアン

ケート調査において、本サイトの利用状況等に関する質問をHIV/エイズ対策担当者に質問したところ、「当サイトを閲覧したことがあるか」の設問に対しては、「ある」との回答は保健所92%、特設検査施設100%、「当サイトが事業に役立っていると思うか」の設問では、「思う」が保健所77%、特設検査施設95%であり、当サイトは自治体HIV/エイズ担当者に認知されており、HIV検査相談事業に寄与していることが示唆された。

当サイトは、Yahoo!ニュースのHIV/エイズ関係記事でのリンク紹介をはじめ、日本赤十字社における献血者への配布文書や自治体サイト等で紹介されており、多方面で効果的に活用されていると考える。

2001年の開設から2015年末で1,551万アクセスを超えた。現在も多くの方に当サイトを利用いただいていることから、今後も正確で最新のHIV検査情報を提供していくとともに、MSM向けサイトとの連携や外国籍をターゲットとしたサイトコンテンツを新規作成することで、更なるHIV/エイズの理解促進と、HIV検査数の増加に貢献していきたいと考えている。

E. 結論

ホームページ「HIV検査・相談マップ」(<http://www.hivkensa.com>)を運営し、保健所等HIV検査相談施設の最新情報やHIV検査に関する基礎知識等の情報を継続的に提供した。また、アクセス解析から、利用状況や閲覧ページの動向等を調査した。

2015年は約190万件の訪問数があった。検索エンジンではHIV/エイズ関連検索で常にトップページに表示されており、HIV/エイズに関心がある方々に信頼性の高いサイトとして多く利用されている。自治体HIV/エイズ担当者の当サイト認知度は9割以上、事業貢献度は約8割が「ある」と回答しており、HIV検査相談事業に寄与していると考えられる。

Yahoo!ニュースの HIV/エイズ関係記事でのリンク紹介をはじめ、日本赤十字社における献血者への配布文書や自治体サイト等、多方面で紹介されており、当サイトは非常に効果的に活用されていると考える。

引用文献

John W. Ayers et al: News and Internet Searches About Human Immunodeficiency Virus After Charlie Sheen's Disclosure, JAMA Intern Med. Published online, February 22, 2016. doi:10.1001/jamainternmed.2016.0003

F. 発表論文等

1. 論文

- 1) 佐野貴子、加藤真吾、今井光信. HIV 無料・匿名検査相談の役割—保健所等 HIV 無料・匿名検査相談施設における HIV 検査の現状と課題—. 日本エイズ学会誌、17:125-132、2015.
- 2) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾. HIV 郵送検査の現状と展望. 日本エイズ学会誌、17:138-142、2015.

2. 学会発表（国内）

- 1) 佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、今井光信、加藤真吾. 民間検査センターにおける HIV 検査の実施状況に関する調査. 日本エイズ学会、2015 年 12 月 1 日、東京.
- 2) 近藤真規子、佐野貴子、井戸田一朗、山中晃、川畑拓也、森 治代、岩室紳也、吉村幸浩、立川夏夫、今井光信. 新規 HIV 感染者における年次別感染初期割合の推移. 日本エイズ学会、2015 年 12 月 1 日、東京.

図1

ホームページの施設情報、検査イベント情報、
情報修正依頼件数

掲載依頼	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
施設情報	645	663	664	666	666
検査イベント情報	111	173	200	177	157
情報修正依頼	379	377	462	591	345

図2

サイトアクセス数 (2001-2015年)

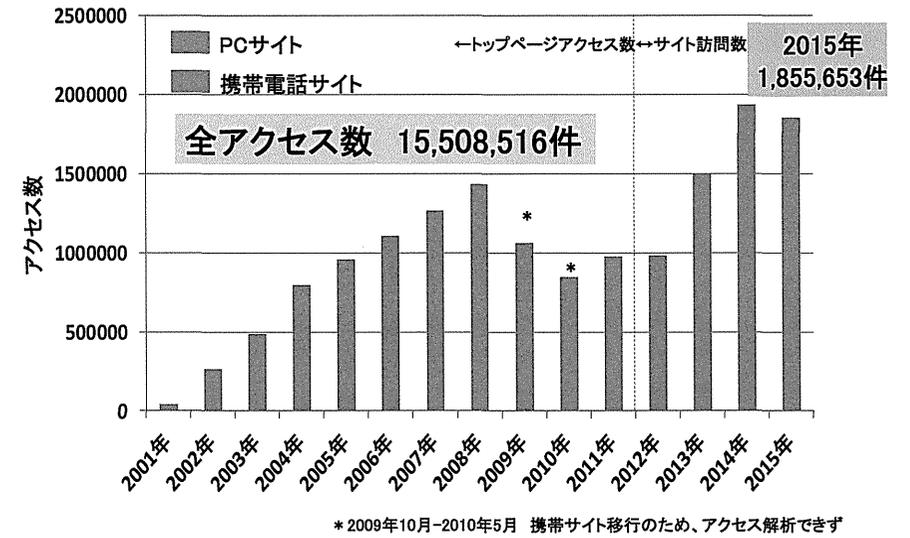


図3

情報端末別訪問数の推移 (2010-2015年)

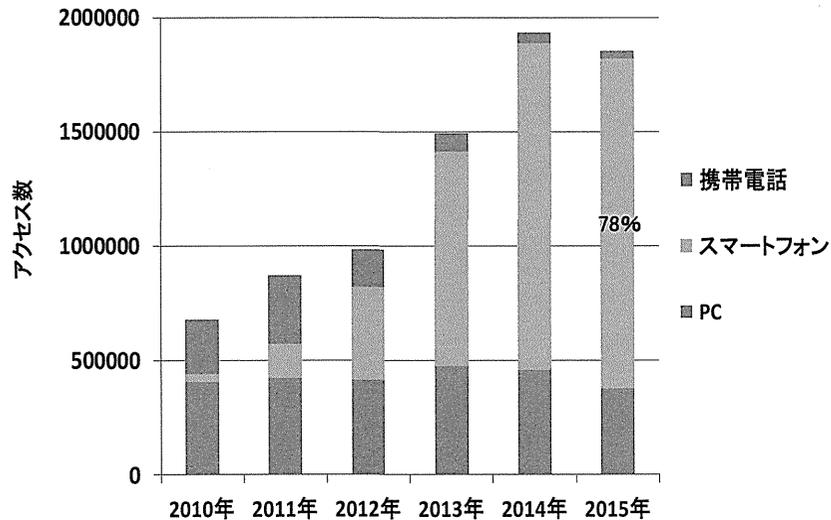


図4

訪問者別 (新規・リピーター) 割合 (2015年)

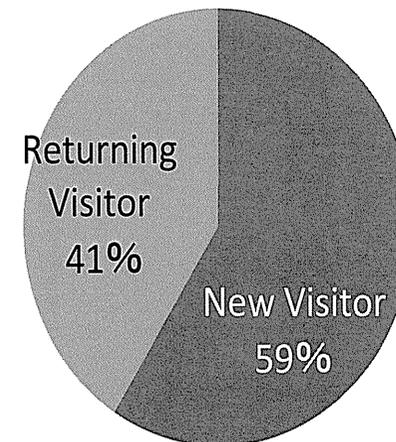


図5 月別アクセス数の推移 (2011~2015年)

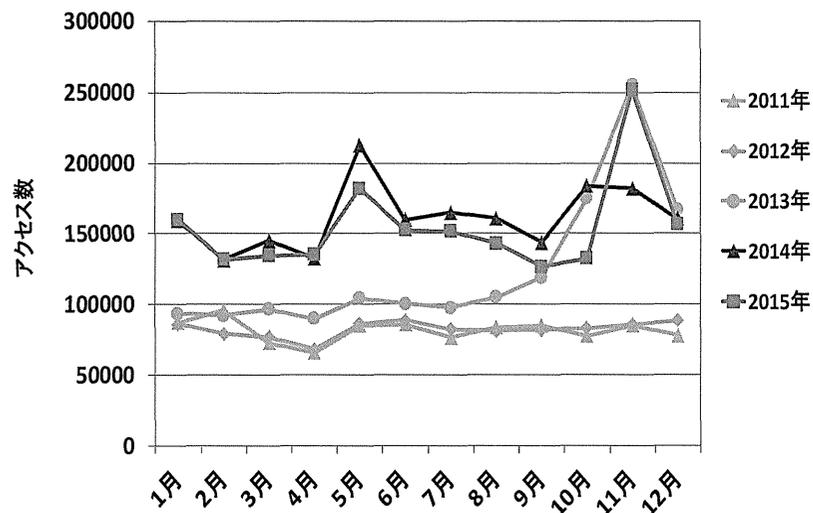


図6 日別訪問数 (2015年)

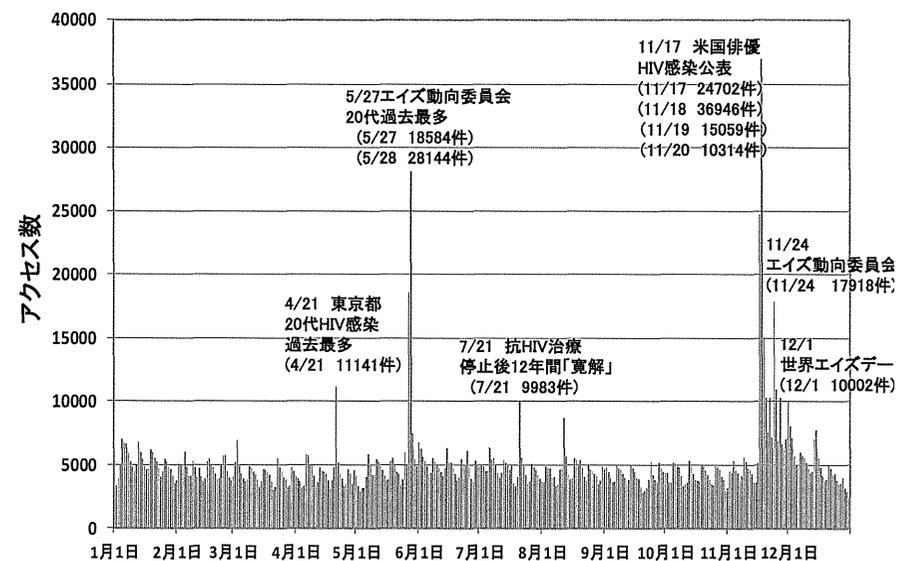


図7 検索都道府県別アクセス数 (2015年)

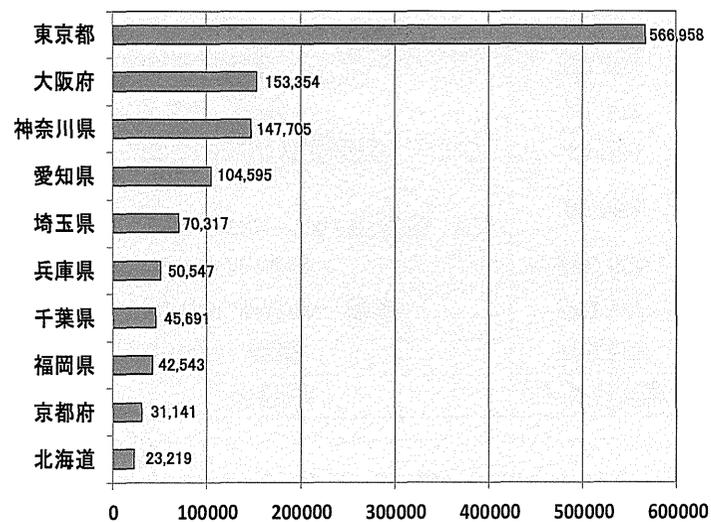


図8 チャンネル別アクセス割合 (2015年)

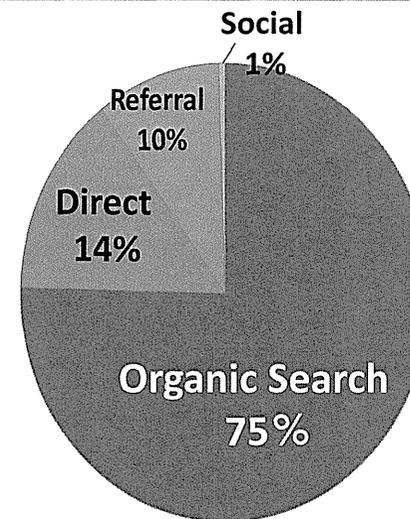


図9

参照元からのアクセス数 (2015年)

参照元	アクセス数
1 Google 検索	769,653
2 Yahoo! JAPAN 検索	549,740
3 Direct access	260,905
4 Yahoo!ニュース・知恵袋 リンク	61,358
5 はじめての性病検査 リンク	45,926
6 ドコモ 検索	22,406
7 bing 検索	20,292
8 au 検索	8,283
9 HIV感染症(エイズ)の検査・症状100問100答	6,389
10 東京都	5,039

図10

ゲイ向けサイトからのアクセス数 (2015年)

参照元	アクセス数
1 KO MENS.TV	4,008
2 Men's Net Japan	2,679
3 G-men	2,294
4 ハッテンナビ 東京	779
5 HIVマップ	777

図11

問い合わせ件数・内容 (2015年)

2015 「HIV検査・相談マップへの」問い合わせ	44件
HIV検査を受けるにあたっての質問 (居住地以外での検査、検査費用、子供の検査、薬の影響)	9
受検した検査施設の感想、不安、苦情 (職員の対応、注射針、手袋、検査結果の信頼性、結果返却)	8
掲載情報等の内容について	7
性的接触による感染リスクについて	4
当サイトの紹介(リンク)、掲載希望	4
感染リスクからの検査日までの期間による結果解釈について	3
HIV陽性判明後の通院・服薬等について	3
HIV/エイズの基本的な質問	2
性感染症検査の受検希望	2
保健所の検査体制について	2

図12

検索エンジン 検索用語別表示順位

検索エンジン	検索用語別順位 (2015年12月)			
	HIV	エイズ	AIDS	AIDS 検査
Google	1	3	14	1
Yahoo! JAPAN	1	3	14	1
bing	1	3	22	1

図13

SHIP検査でのアンケート結果

Q. 当検査を何で知りましたか？(複数回答) (n=58)

情報収集手段	回答者数	回答率
SHIPのホームページ	31	53%
HIV検査・相談マップ	15	26%
クチコミなど	8	14%
HIVマップ	6	10%
9モンスター	6	10%
MNJ	1	2%
Mixi	0	0%
HuGs	0	0%
Mens Mixi	0	0%
テレビ・新聞など	0	0%
パンフレットなど	0	0%
電話相談など	0	0%

図14

(2015年)

ホームページ「HIV検査・相談マップ」を
ご覧になったことはありますか？(保健所)

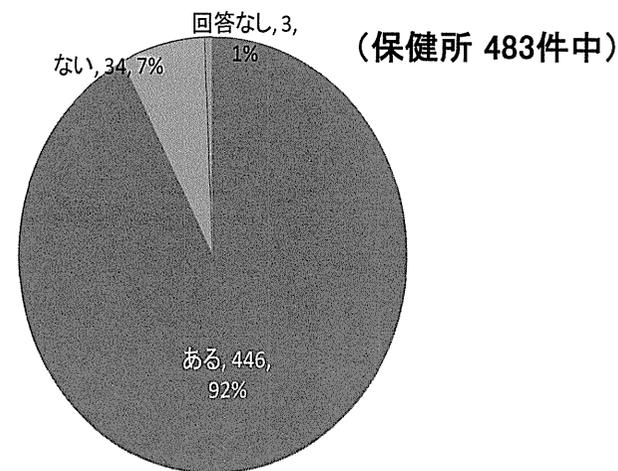


図15

(2015年)

ホームページ「HIV検査・相談マップ」を
ご覧になったことはありますか？(特設)

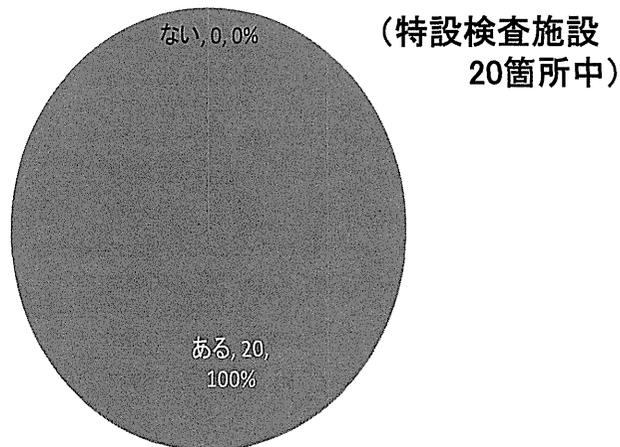


図16

(2015年)

「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に
役立っていると思いますか？(保健所)

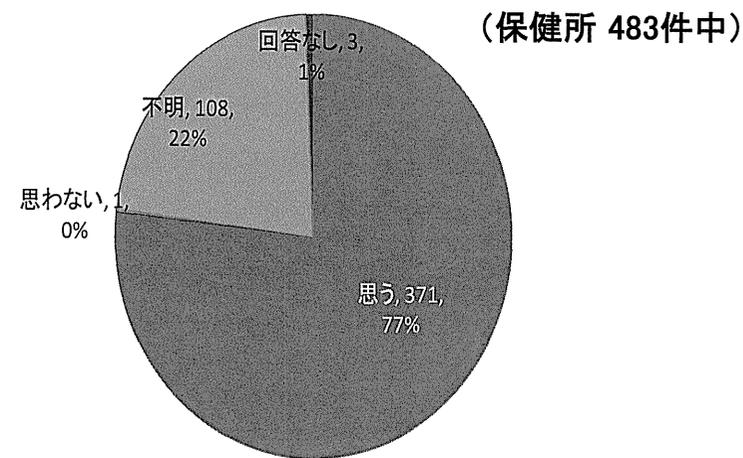


図17

(2015年)

「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に役立っていると思いますか？(特設)

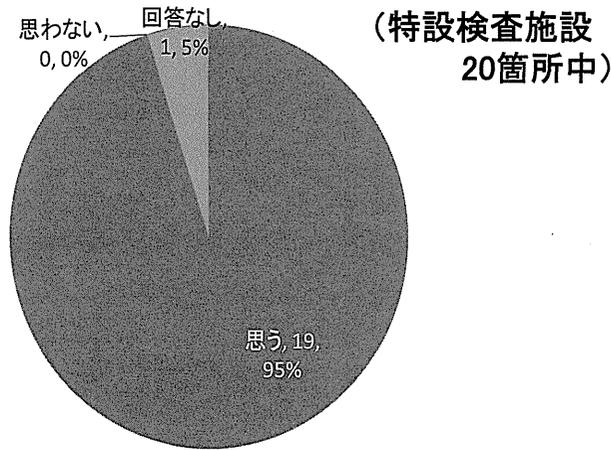


図18

(2015年)

「HIV検査・相談マップ」から情報を得て受検された方はいらっしゃいますか？(保健所)

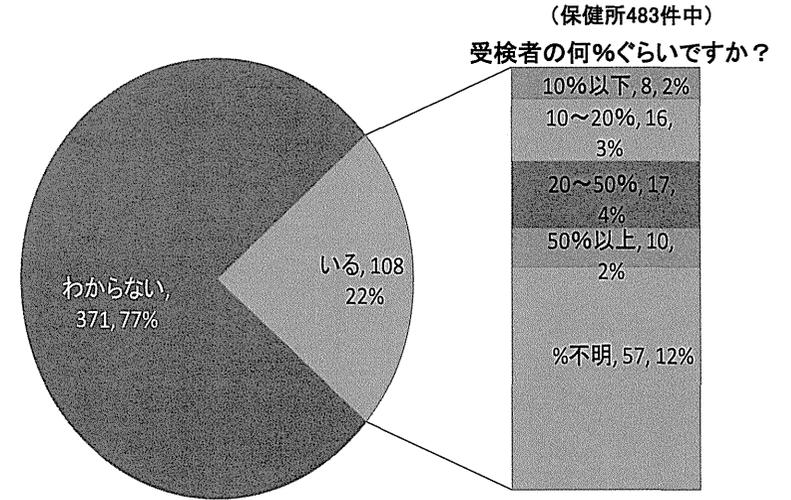
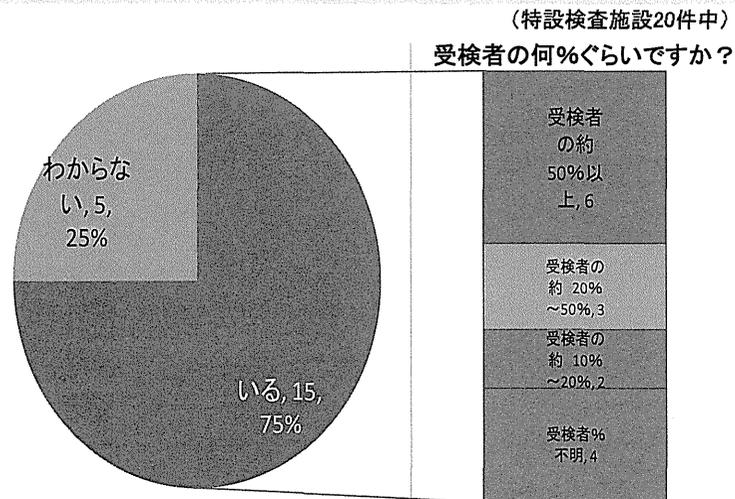


図19

(2015年)

「HIV検査・相談マップ」から情報を得て受検された方はいらっしゃいますか？(特設)



保健所等における HIV 検査相談に関する全国調査

研究分担者：今井光信（田園調布学園大学 副学長）

研究協力者：近藤真規子、佐野貴子（神奈川県衛生研究所微生物部）、
大野理恵（神奈川県衛生研究所微生物部 HIV 研究班）、岡部英男（神奈川県衛生研究所）、須藤弘二、加藤真吾（慶應義塾大学医学部微生物部・免疫学教室）、市川誠一（人間環境大学大学院看護学研究科）

研究要旨

男性同性間の HIV 感染予防対策を考える上で、重要な位置を占めている保健所等における HIV 検査相談体制の実状を把握し、また、その充実を図るため、全国の保健所等 HIV 無料匿名検査実施施設を対象とした HIV 検査・相談に関するアンケート調査を実施した。

今回の全国保健所アンケート調査においては、全国の保健所等の協力により、対象とした 565 箇所（保健所及びその支所等）中、484 施設（86%）から回答を得ることができた。アンケート結果では、平成 27 年の 1 年間に、回答の得られた 484 施設で 87,856 件の HIV 検査が実施され、254 件（0.29%）が陽性であった。陽性 254 件中 238 件（94%）が保健所等に再来所して陽性の結果を受け取っており、また、208 件（87%）については、その後医療機関を受診していることが保健所等において確認されていることが分かった。また、感染症法に基づく届出に関しては、平成 27 年に陽性と分かった 254 件中の 143 件（56%）については自施設からの報告が行われていることが分かった。

また、東京都南新宿 HIV 検査・相談室等の特設検査機関へのアンケート結果では、24 箇所中 20 箇所から回答があり、それらの検査相談機関において、24,412 件の検査が行われ、129 件（0.53%）が陽性であった。陽性であった 129 件中 121 件（94%）において、結果が伝えられ、そのうち、113 件（93%）については受診したことが把握されていた。

即日検査の実施状況に関しては、平成 27 年に即日検査を実施した保健所は 328 施設（68%）と昨年とほぼ同じであった。また夜間・土日検査に関しては、平日夜間検査が 184 施設（38%）で、土日検査が 71 施設（15%）と、昨年と比べ土日検査もほぼ同じであった。全国的にみると検査相談の実施形態に関してはこの数年ほぼ定常状態にあることが分かった。

また、保健所等における HIV 検査相談は、HIV 感染予防対策を考える上でも重要な役割を有するものであるが、それと関連したアンケート調査では、行動変容を働きかける相談に関しては、保健所の 94%、特設検査相談施設の 90%とそのほとんどが、受検者への感染予防の働きかけを行っていると回答している。また、受検者について把握している内容については、受検動機、感染リスク、感染機会の時期、等については 70%以上の保健所や特設検査相談機関が把握していると回答している。一方、性的志向に関しては特設検査相談施設の 80%が把握しているとの回答したのに対して、保健所で把握しているとの回答は 48%であった。保健所における HIV 検査相談が、男性同性間の HIV 感染予防対策の観点からも、より効果的に実施されるためには、具体的に何が必要かを、今後のアンケート等を通じて明らかにするとともに、研究班として可能な支援方法について検討していきたい。

また、本アンケート調査を開始する一つのきっかけでもあった検査結果の誤通知に関しては、本年度においてはHIV検査に関して3件とSTI検査に関して1件、合計4件の誤通知事例があった。結果の転記ミスや渡す際の番号の間違いによる人為的ミスであったが、幸い、いずれのケースでも、正しい結果を本人に伝えることができたとのことであった。保健所等におけるHIV検査は匿名であることもあり、その結果の受け渡しや、結果の確認に関しては、より慎重な対応が必要である。結果の確認や転記ミスの防止、匿名（番号・記号）による本人確認の徹底等により誤通知事例の再発防止に努めることが重要である。

A. 目的

男性同性間のHIV感染予防対策を考える上で、重要な位置を占めている保健所等におけるHIV検査相談体制の実状を把握し、その充実を図るため、全国の保健所等を対象にHIV検査相談の検査体制・相談体制に関するアンケート調査を実施した。

B. 方法

全国の保健所およびその支所等565箇所のHIV検査相談施設と南新宿HIV検査相談施設等24箇所の特設HIV検査相談施設とを対象に、平成28年1月5日にHIV検査相談（H27年）に関するアンケート調査票を郵送し、平成28年1月23日を締め切り日として、返送用封筒によりアンケート調査票を回収し、結果の解析を行った。

C. 結果

今回のアンケート調査では、全国の保健所等の565施設中484施設からアンケート結果が返送され、アンケートの回収率は86%であった。また、特設検査相談機関については、対象とした24施設中20施設（83%）からアンケート結果を回収できた。

① 保健所におけるHIV検査相談の実施率

回答のあった484保健所等施設の中で483施設とほとんどの施設がHIV検査相談を実施していた。残りの2施設では検査相談を受けに来る人がいなかった。

② HIV検査総数と陽性率

上記484保健所等施設で平成27年に行ったHIV検査相談の検査総数は87,856件で、陽性

は254件（0.29%）であった（図1）。

一方、回答のあった20特設検査相談機関で平成27年に行ったHIV検査相談の検査総数は24,412件で、陽性は129件（0.53%）であった（図2）。

③ HIV検査陽性者の結果通知と医療機関受診の把握率

保健所でのHIV検査陽性の254件において、受検者が陽性の確認検査を受け取りに再来所したのは238件（94%）であった。この中で医療機関に受診したことが確認されている事例は208例であり、陽性結果を伝えられた238件中の87%であった。

特設検査でのHIV検査陽性の129件において、受検者が陽性の確認検査を受け取ったのは121件（94%）であった。この中で医療機関に受診したことが確認されている事例は113例であり、陽性結果を伝えられた121件中の93%であった（図2）。

④ HIVの確認検査陽性例の報告

HIVの確認検査陽性例の感染症法に基づく届け出に関しては、保健所では、平成27年に陽性と分かった254件中の143件（56%）については自施設からの報告が行われており、残りは紹介先の医療機関に届け出を依頼していることが分かった（図1）。

特設検査では、129件中の103件（80%）については自施設からの報告が行われており、残りは紹介先の医療機関に届け出を依頼していることが分かった（図2）。

⑤ HIV検査以外の性感染症検査について

HIV検査と同時に行っている性感染症検査

に関しては411施設(85%)の保健所等で実施しており(図25-A)、その内訳は、梅毒検査319施設(78%)、クラミジア抗体151施設(36%)、クラミジア抗原130施設(32%)、淋菌49施設(12%)、B型肝炎309施設(75%)、C型肝炎294施設(72%)であった。梅毒検査及びB型肝炎とC型肝炎のウイルス検査に関しては、70%を上回る施設で実施されていることが分かった(図26-A)。

特設検査相談機関では、7施設(35%)で性感染症検査を実施しており、その内訳は、梅毒検査6施設(86%)、クラミジア抗体0施設(0%)、クラミジア抗原2施設(29%)、淋菌2施設(29%)、B型肝炎5施設(71%)、C型肝炎0施設(0%)であった。梅毒検査及びB型肝炎ウイルス検査に関する検査の実施施設が多かった(図25-B, 図26-B)。

⑥ 受検者について把握している内容

保健所では、性別と年齢・年代についてはほとんどの保健所が把握しており、受検動機については82%、感染機会の時期については82%、感染リスクについては70%と把握しているとの回答が多かった。一方、居住地については46%の保健所で把握しているとの回答であり、性的指向については48%の保健所が把握しているとの回答であった。(図24-A)

特設検査相談では、性別と年齢・年代については全ての施設が把握しており、居住地については75%、受検動機については70%、感染機会の時期については70%、感染リスクについては80%、性的指向については80%と多くの施設が把握しているとの回答であった(図24-B)。

⑥ HIV 即日検査の実施状況

保健所で、即日検査のみ実施している施設が211施設(44%)、即日検査と通常検査を行っている施設が117施設(24%)、通常検査のみ行っている施設は155施設(32%)であり、68%の施設が即日検査を導入しており、これら割合は、昨年とほぼ同じであった(図3-A)。

特設検査相談では、即日検査のみ実施している施設が14施設(70%)、即日検査と通常検査を行っている施設が2施設(10%)、通常検査のみ行っている施設は4施設(20%)であり、80%の施設が即日検査を導入していた(図3-B)。

⑦ 土曜・日曜・夜間検査の実施状況

HIV検査相談を実施している全国483保健所で、平日・昼間にのみ検査を行っている保健所が228施設(47%)、平日夜間検査を行っている保健所が184施設(38%)、土曜・日曜検査を行っている保健所が71施設(15%)であり、土日検査は昨年に比べわずかながら増えていた(図4-A)。

特設検査相談では、平日夜間検査を行っている施設が2施設(10%)、土曜・日曜検査を行っている保健所が18施設(90%)と多かった(図4-B)。

⑧ 検査法と実施時間の組み合わせ

検査法と実施時間との組み合わせについては、保健所では、通常平日の検査は118施設(24%)、通常夜間が36施設(8%)、通常土日が1施設であり、即日平日が84施設(17%)、即日夜間が95施設(20%)、即日土日が32施設(7%)であり、両検査平日が26施設(5%)、両検査夜間が53施設(11%)、両検査土日が38施設(8%)であった。これらの結果から、多くの検査施設が昨年同様、より利便性の高い検査相談の提供に努めていることが分かった(図5-A)。

特設検査相談では、通常平日夜間が1施設(5%)、通常土日が3施設(15%)、即日夜間が1施設(5%)、即日土日が13施設(65%)であり、両検査土日が2施設(10%)であった(図5-B)。

⑨ 年間検査件数別の保健所分布

年間検査件数別の保健所分布に関しては、年間検査件数が50件未満の保健所数は185箇所(38%)、50件以上100件未満は80箇所(17%)、100件以上200件未満は97箇所(20%)、200件以上500件未満は80箇所

(17%)、500 件以上 1000 件未満は 30 箇所 (6.2%)、1000 件以上は 11 箇所 (2.3%)であった (図 12-A)。

特設検査相談では、年間検査件数が 50 件以上 100 件未満は 1 箇所 (5%)、100 件以上 200 件未満は 2 箇所 (10%)、200 件以上 500 件未満は 4 箇所 (20%)、500 件以上 1000 件未満は 8 箇所 (40%)、1000 件以上は 5 箇所 (25%)であった (図 12-B)。

⑩ 年間検査件数別の保健所数とその検査数

年間検査件数が 200 件以上の保健所数は 121 箇所 (25%)であったが、そこで実施された検査件数は、63,941 件で全検査数 87,856 件の 73%を占めており、また、年間 500 件以上の施設は 41 件 8%であるが、それら施設における検査数は全検査数の 45%を占めていた。一方、年間検査数が 100 件未満の保健所が保健所数では 55%となるが、その合計検査数は全検査数の 11%であった (図 13)。

⑪ 年間検査件数別の陽性率

保健所等の HIV 検査相談における陽性率は、平均では 0.29%であり、年間検査数別に調べると、検査数 50 件未満の保健所では 0.29%、検査数 50-99 件の保健所では 0.16%、100-199 件の施設では 0.30%、200-499 件の施設では 0.21%、500-999 件の施設では 0.35%、1000 件以上の施設では 0.36%と、検査数の 500 件以上と非常に多い施設では陽性率も 0.35 以上と高かったが、50 件未満であっても 0.29 と特に低いともいえなかった (図 14)。50 件以下であっても陽性率が 0.29 であったことについては今までと異なっており、今後の動向を注視していくことが重要である。

⑫ 予約制の有無

予約制の有無に関しては、保健所では、通常検査の実施設の 58%、即日検査の実施設の 82%が予約制を実施しており、またその場合、通常検査では 42%、即日検査では 75%が上限を設けていた (図 17-A, 18-A, 19, 20-A)。

特設検査相談では、通常検査の実施設の

50%、即日検査の実施設の 56%が予約制を実施しており、またその場合、通常検査では 50%、即日検査では 88%が上限を設けていた (図 17-B, 18-B, 図 20-B)。

⑬ HIV 検査 (スクリーニング検査と確認検査) の実施施設

通常検査におけるスクリーニング検査 (271 件) では、自保健所での実施が 16%、他の保健所への委託が 11%、衛生研究所への委託が 42%、外部委託による検査は 30%であった (図 32)。また、確認検査に関しては、衛生研究所への依頼が 71%で、外部委託は 20%であった (図 31)。即日検査の場合、迅速検査の実施者は、自施設の検査職員が 61%、医師、保健師が 15%であった。

⑭ スクリーニング検査陽性後の通知と確認検査について

通常検査の場合には、スクリーニング検査陽性の場合には確認検査を引き続き実施し、受検者には、確認検査後の結果を通知するが 235 施設 (86%) と最も多く、また、昨年比べてやや増加していた。スクリーニング検査の結果を通知し、その際に確認検査用の採血を行う施設は 18 施設 (7%) と少なかった (図 29)。

即日検査の場合、スクリーニング検査陽性の場合には、後日確認検査の結果を伝えることになるが、確認検査に使用する検体については、迅速検査の残血液で行うが 204 施設と最も多く、迅速検査用と同時に確認検査用血液も予め採血する施設が 58 施設、陽性後に再採血するが 56 施設であった。

⑮ 確認検査の方法について

確認検査の方法について、保健所では、WB のみが 167 施設 (35%) 二次スクリーニングと WB が 158 施設 (33%)、WB と NAT 法の組み合わせは 146 施設 (30%)であった (図 30-A)。

特設検査相談では、WB のみが 1 施設 (5%) 二次スクリーニングと WB が 8 施設 (40%)、WB と NAT 法の組み合わせは 8 施設 (40%)であった (図 30-B)。

⑩ 結果説明について

結果説明の担当者（複数回答可）に関しては、保健所では、陰性時には医師が40%、保健師・看護師が76%であり、迅速検査陽性時には、実施施設（328件）では、医師が76%、保健師・看護師が75%で、確認検査陽性時には医師が97%とほぼ全ての施設で医師が担当し、保健師・看護師74%、カウンセラー24%も加わっていることが分かった（図38-A）。また、感染予防のための行動変容を働きかける相談に関しては、94%の施設において行われており、80%の施設が全員に、20%の施設では一部を対象に行われていた（図39-A, 40-A）。陽性者への説明に関しては、全施設の75%で説明資料を用意してあるとの回答であった（図47-A）。陽性者への説明のマニュアルについては69%の施設でありとの回答であった（図46-A）。

特設検査相談では、陰性時には医師が71%、保健師・看護師が35%であり、迅速検査陽性時には、医師が77%、保健師・看護師が23%で、確認検査陽性時には全ての施設で医師が担当し、41%では保健師・看護師、71%ではカウンセラー等も加わっていることが分かった（図38-B）。

また、感染予防のための行動変容を働きかける相談に関しては、90%の施設において行われており、89%では全員に、11%の施設では一部を対象に行われていた（図39-B, 40-B）。陽性者への説明に関しては、全施設の85%で説明資料を用意してあるとの回答であった（図47-B）。陽性者への説明のマニュアルについては80%の施設でありとの回答であった（図46-B）。

⑪ HIV等の検査結果の誤通知について

また、本アンケート調査を開始する一つのきっかけでもあった検査結果の誤通知に関しては、平成25年は5件（検査結果の記入ミスが2例、別の受検者の結果を伝えるミスが3例）あり、平成26年は誤通知事例の報告は0であったが、平成27年においてはHIV検査に

関して3件とSTI検査に関して1件、合計4件の誤通知事例があった。結果の転記ミスや渡す際の番号の間違いによる人為的ミスであったが、幸い、いずれのケースでも、正しい結果を本人に伝えることができたとのことであった。保健所等におけるHIV検査は匿名であることもあり、その結果の受け渡しや、結果の確認に関しては、より慎重な対応が必要であり、結果確認や番号確認の徹底等、誤通知事例の再発防止に努めることが重要である。

D. まとめと考察

平成20年をピークに、その後は新型インフルエンザ、東日本大震災等の影響もあり、国民全体のHIVへの関心が下がり、保健所等におけるHIV検査相談数も平成21-22年と大きく減少したが、その後は横ばい傾向が続いており、平成27年の保健所アンケート調査においても、ほぼ横ばいの状況が続いていることが分かった。

今回行った全国保健所アンケート調査においては、全国の保健所の協力により、対象とした565保健所等施設の86%、484施設から回答を得ることができた。

また、特設検査相談機関についても、対象とした24施設の20施設（83%）から回答を得ることができた。

アンケート結果では、HIV検査を実施している全国483施設で、平成27年に87,856件のHIV検査が実施され、そのうち254件（0.29%）が陽性であった。陽性例のうち、238件（94%）が再来所して陽性の結果を受け取っており、208件（87%）については、その後医療機関に受診していることが保健所において確認されていることが分かった。陽性数は昨年に比べやや増加し、医療機関に繋がったことの確認ができた率も昨年に比べ上昇がみられた。

一方、HIV確認検査陽性例の感染症法に基づく届け出に関しては、特設検査機関では80%で届け出が行われているのに対し、保健

所では56%の届け出であった。サーベイランスの精度向上のためにも、確認検査陽性を確定した施設からの報告を徹底する一方、医療機関との連携を深めることにより、陽性判明者の受診率の向上と、届け出の重複のない仕組みを構築していくことが重要である。

また、HIV検査相談の利便性の向上に関しては、即日検査や夜間、土日検査等受検者に利便性の高い時間帯の検査を多くの施設で実施しており、通常検査で平日昼間のみの保健所は全体の24%と少なかった。

また、保健所等におけるHIV検査相談は、HIV感染予防対策を考える上でも重要な役割を有するものであるが、それと関連したアンケート調査では、行動変容を働きかける相談に関しては、保健所の94%、特設検査相談施設の90%とそのほとんどが、受検者への感染予防の働きかけを行っているとは回答している。また、受検者について把握している内容については、受検動機、感染リスク、感染機会の時期、等については70%以上の保健所や特設検査相談機関が把握しているとは回答している。一方、性的志向に関しては特設検査相談施設の80%が把握しているとの回答したのに対して、保健所で把握しているとの回答は48%であった。保健所におけるHIV検査相談が、男性同性間のHIV感染予防対策の観点からも、より効果的に実施されるためには、具体的に何が必要かを、今後のアンケート等を通じて明らかにするとともに、研究班として可能な支援方法について検討していきたい。また、本アンケート調査を開始する一つのきっかけでもあった検査結果の誤通知に関しては、平成25年はHIV検査とSTI検査等で5件と多数の事例があったため、平成25年の報告書において、誤通知事例の概要、原因等を報告し、その防止策の強化に関する注意喚起を行ったが、平成26年は幸い誤通知に関する事例報告は0であった。しかしながら、今回（平成27年）再び、HIV検査に関して3件とSTI検査

に関して1件、合計4件の誤通知事例のあったことが分かった。結果の転記ミスや渡す際の番号の間違いによる人為的ミスであったが、幸い、いずれのケースでも、正しい結果を本人に伝えることができたとのことであった。保健所等におけるHIV検査は匿名であることもあり、その結果の受け渡しや、結果の確認に関しては、より慎重な対応が必要であり、結果確認や番号確認の徹底等、誤通知事例の再発防止に努めることが重要である。

今回の例からも、誤通知事例はどの施設でも起こりうることを共通認識として共有し、誤通知等の発生防止に向けて継続した努力と注意喚起が今後とも必要である。

謝辞

保健所の様々な業務で忙しい中、アンケート調査にご協力頂いた全国の保健所および特設HIV検査相談関係者の皆様方に深く感謝致します。

E. 発表論文等

1. 論文

1) 佐野貴子、加藤真吾、今井光信. HIV無料・匿名検査相談の役割—保健所等HIV無料・匿名検査相談施設におけるHIV検査の現状と課題—. 日本エイズ学会誌、17:125-132、2015.

2) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾. HIV郵送検査の現状と展望. 日本エイズ学会誌、17:138-142、2015.

2. 学会発表（国内）

1) 佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、今井光信、加藤真吾. 民間検査センターにおけるHIV検査の実施状況に関する調査. 日本エイズ学会、2015年12月1日、東京.

2) 近藤真規子、佐野貴子、井戸田一朗、山中晃、川畑拓也、森 治代、岩室紳也、吉村幸浩、立川夏夫、今井光信. 新規HIV感染者における年次別感染初期割合の推移. 日本エイズ学会、2015年12月1日、東京.

図1

保健所等におけるHIV検査体制に関する 全国調査の結果 (2016年2月29日)

保健所アンケート 回答数 (2016.2/29現在) 484/ 565箇所 (86%)

2015年にHIV検査を実施した保健所 483/ 484所 (99.8%)

2015年に陽性結果のあった保健所 119/ 483箇所 (25%)

陽性件数 254/ 87, 856 (陽性率 0.29%)

陽性結果を伝えられた件数 → 238/ 254 (94%)

受診したことを把握できた件数 → 208/ 238 (87%)

発生動向調査の報告を行った感染者数件数 → 143/ 254 (56%)

(陰性結果を伝えられた件数 → 85,919/87,602 (98%))

図2

保健所等におけるHIV検査体制に関する 全国調査の結果 (2016年2月29日)

特設検査機関アンケート 回答数 (2016.2.29現在) 20/ 24箇所 (83%)

2015年にHIV陽性結果のあった特設検査機関 14/ 20箇所

陽性件数 129/ 24,412 (陽性率 0.5%)

陽性結果を伝えられた件数 → 121/ 129 (94%)

受診したことを把握できた件数 → 113/ 121 (93%)

発生動向調査の報告を行った件数 → 103/ 129 (80%)

(陰性結果を伝えられた件数 → 23,914/ 24,283 (98%))

図3-A

(2015年)

保健所HIV検査 — 即日検査と通常検査 — (483件中)

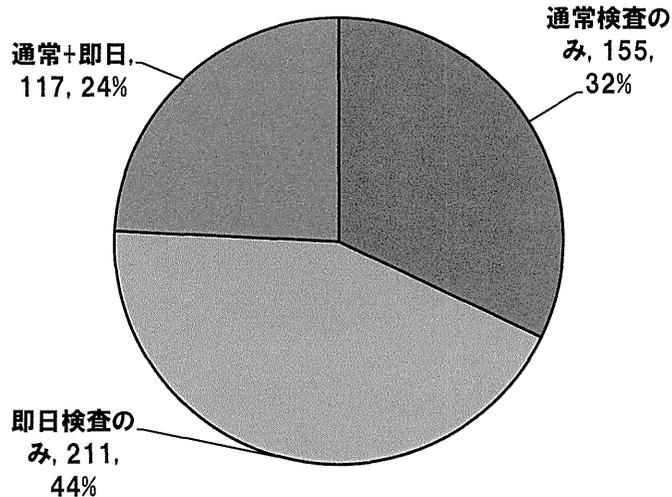


図3-B

(2015年)

特設検査相談施設 HIV検査 — 即日検査と通常検査 — (20件中)

